

平成28年度第1回調布市男女共同参画推進センター運営委員会
議事録要旨

日時 平成28年9月26日（月）午後2時～午後4時

場所 市民プラザあくろす研修室2

出席者（敬称略 50音順）9人

市川委員，大石委員，金子委員，竹内委員，富永委員，中野委員，森委員
嶋原委員，仁藤委員，

1 開会

資料確認

2 挨拶

ア 生活文化スポーツ部長より挨拶

イ 各委員自己紹介

3 調布市男女共同参画推進センター運営委員会委員委嘱

4 委員長及び副委員長の選出

委員長は富永委員，副委員長は竹内委員に決定

5 議事

(1) 男女共同参画推進センター事業について

事務局より27年度実施事業，28年度実施事業，事業予定を説明後，
各委員より意見。

委員A：27年度に行った神代高校定時制へのデートDVについての出
前講座について，他の高校では実施しないのか。

事務局：取組を始めたばかりの事業でまず都立高校に声をかけ，26年
度は都立南高校で実施した。27年度，都合がついた高校が
神代高校だった。

委員長：（当時企画者だったので）補足説明をすると，声をかけて賛同
いただいた高校に出前講座を実施した。27年度は，定時制
の高校であったが，今までコンタクトのなかった神代高校で

講座を実施できたという意味でうまくいったと思っている。

委員 B : 出前講座の案内をしても学校に話を聞いてもらうことが難しい。学校はカリキュラムが決まっているため時間がないということもある。働きかけが難しい。

委員 A : 選挙管理委員会が実施した 18 歳選挙の模擬投票のように参加型にすると良いと思う。学校に提案する際の方法として、今実施していることに足す形として提案してみてもどうか。都立は異動があるが、私立の教員は異動がないので、パイプができる方が良い。教員を巻き込む形で学校とのネットワークづくりを検討してはどうか。また、LGBT はテーマとしてハードルが高いのではないかと。

委員 C : 利用者からの企画の要望はないのか。

事務局 : 講座を開催した際にとるアンケートで「このような講座をまた開催してほしい」といった要望を頂くことはあるが、基本的には、市民プラザあくろすが行なっている貸館の利用者との交流が男女共同参画推進センターはないため、利用者からの要望というものはない。

委員 C : 男女共同参画推進センターと貸館利用者との交流、利用者同士のコミュニケーションの場があるといい。そうすることで、横のつながりができる。

委員長 : そういう機能を持った場が男女共同参画推進フォーラムではないのか。

委員 D : 年に 1 回開催する男女共同参画推進フォーラムが、男女共同参画推進に取り組む団体同士の交流を図るものとなっているが、あくろすの貸館利用者というわけではない。今後、フォーラムがそのような場になればよいと思っている。今年はフォーラムが終わった後も集まる機会を持ち、つながりを作ろうとしている。

委員E：男女共同参画推進センターを知らなかった。名前とその活動が一致しない。

(2) センター運営委員会の目的とテーマについて

事務局よりセンター運営委員会の目的とテーマ，今後のスケジュールについて説明したうえ，意見交換を行った。

委員長：センターの事業は幅広いが，今回テーマとして話し合うのはその中の一部である。女性活躍推進法は「職業生活と家庭の両立」とあることから，すでに働いている人たちがより活躍できる方法について話し合っていく方向が良いと思う。

「地域における」ということから，調布ならではのサポートの仕方等について考えていきたい。

委員D：年齢などのターゲットはどのあたりに絞るのか。結婚，子育てをしてもキャリアアップしたい世代と考えて良いか。だいたい30～40代。考える際に女性の生活パターンなどのイメージがあった方が考えやすい。

副委員長：女性活躍推進法について補足したい。女性の就労に関する法律はたくさんある。その中で，途中でキャリアを中断させないための法律が，今回の女性活躍推進法となる。

議論が小さくなってしまうので，課題についての意見交換など最初の段階ではターゲットを絞らなくてよいのではないかと。

委員C：基本的に地域の女性はこのような働き方をしていないと感じている。「地域における」に焦点を当てたい。就職した会社に居続けるといった就労継続が良いとは思わない。もっと柔軟な働き方や「新しい働き方」像を考えたい。

この先の議論として，既存の枠の中で現状に対応する方法を議論するのか，新しい働き方を模索するのかという点は最初に共有しておかないと議論がぶれると思う。

副委員長：今後，働き方はかなり変わる。国も動いている。配偶者控除

廃止等は数年前には考えられなかった。積極的に発言，提案していかないと市民が国において行かれることになる。積極的に提案して最後に調整していく方向でよいのではないか。

委員 A：女性活躍ということであるが，男性がどう関わっていくかについて教育の場，雇用の場等で提示していくことも必要ではないか。10年後には職業が大きく変わる。自由な発想をした方がよい。男性が家庭を支えるというイメージは今後なくなるのではないか。男性も女性も自分がどこでどういう活躍ができるのか。そのようなことを小さいころから意識する，気付かせるような何かをやっていかなければいけない。

委員 F：対象が誰かということは意識する。

委員 G：女性の働き方は変わってきている。柔軟な発想を持ちながらも既定路線ではなく調布オリジナルなものができるといい。

委員 E：次回に関しては，ターゲットを絞らない方向で考えたい。自分が経験したことを話していきたい。「調布ならでは」ということが漠然としてわかりづらい。調布は働くことができる主婦が多いと感じている。幼稚園の中で1つの仕事をシェアし合うなどしている。

委員 B：次回は，問題と感ずること，思うことを持ち寄りワークショップ形式でおこなってはどうか。

委員 G：「地域における」と「女性」はセットで考えるか。まずは女性だけを考えればよいか。

委員長：「調布ならでは」を考えるときにも，女性一般の中でも調布地域の独自性という話になると思うので同時並行で話したい。

委員 E：どういったことが「調布ならでは」なのか。

委員 D：調布の中でも地域に差がある。

委員 G：「調布ならでは」は，大学など，調布にしかない資源という意味で考えたらどうか。調布にはこれがあるからこんなことができるよといったように考えたい。

委員C：中にいるとわからないが外から見ると資源に見える物について議論しても面白い。

委員長：議論の進め方として、第4回目以降から、調布ならではの事業所との連携などを話し合う方向で女性の就労について考える。

6 その他

(1) 次回日程

平成28年12月20日（火）午後6時～8時 あくろす研修室2

(2) 女性の就労人口について事務局で調べて後日各委員に送付する。

【配付資料】

資料1 平成28年度 男女共同参画推進センター運営委員会委員名簿

資料2 男女共同参画推進センター事業

資料3 センター運営委員会の目的・テーマ

資料4 開催スケジュール（案）

参考1 男女共同参画推進センター運営委員会要綱

参考2 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の概要

参考3 調布市男女共同参画推進プラン（第4次）